

# 山形県連小会報

第149号

発行日 平成29年10月1日

発行者 山形県連合小学校長会

田中利幸

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルズ)

## 県連小 第2回理事会報告

# 東北連小山形大会大成功への感謝と県・東北・全連小の活動について

## 会長のあいさつ

### 1 第57回東北連小研究協議会山形大会へのお礼

2つの大会コンセプトに照らして、「研修の深まりを最大のおもてなしと考える」に関しては、「脱・優等生」から始まった富田勝先生のご講演は素晴らしい反響で、是非持ち帰って職場や地区の先生方に伝えたいと絶賛をいただきました。また分科会についても、会場が広くきれいだったことや熱心な討議が展開されていたという感想が多く聞かれました。

「コンパクトな大会を目指す中で、できる限りのおもてなしをしよう」についても、山形駅からすぐの全体会場で各分科会場にも歩いて行けるコンパクトな大会の中に、受付や案内が丁寧なおもてなしの心のこもった、本当に温かい気持ちになる大会運営だったと、最大の賛辞をいただきました。主管3地区を中心に、全県体制でのご協力に感謝です。

### 2 県連小の現況について

喫緊の課題への組織的な対応力と発信する県連小を目指して組織改編が行われて3年目になりますが、対策委員会、研修委員会、生徒指導委員会の3つの専門委員会は、委員の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに充実した取り組みが行われていると伺っております。特に、研修委員会は、山形大会の分科会運営についてご尽力いただいたことに、感謝申し上げます。

### 3 東北連小の動きと対応について

東北連小山形大会の1日目に第2回研修会・理事会を開催しました。6月7日に開催された第1回教育課程委員会の報告や、青森県の理事より平成30年度に開催される東北連小青森大会について、秋田県の理事より平成31年度に開催される全連小秋田大会について提案がありました。昨年度からの継続審議になっている「東北連小大会運営準備金(仮称)」については、後ほど協議をお願いします。

ます。

### 4 全連小の動きと国・県の教育施策について

7月11日・12日に開催された全連小常任理事会と小学校長会長連絡協議会では、全連小で作成した新学習指導要領への準備資料の紹介と、移行措置について総合的な学習からの時数流用は慎重に考えてほしい、教員の働き方改革について様々な会議の中で「学校の努力だけでは限界」という認識が広まっているので改革の好機だととらえているとの話がありました。また、文科省教育課程課の白井俊企画室長より「これからの教育の在り方について～新学習指導要領及び移行措置等について～」と題した講演会がありました。資料を準備しましたのでご活用ください。「各都道府県校長会の新教育課程編成等への取組と展望」についての情報交換では、どの県からも外国語活動の指導員確保については区市町村の財政事情によって差が生じていること、時数確保の方法については授業日数や6校時授業日の増、モジュール、土曜授業などを視野に様子見をしているという状況でした。また、卒業式は3/15～3/25に行われており管理職を通しての本人への内示は2月上旬～3/15、本人への通知後に調整が入りマスコミ報道は3月下旬～4/1、内示後も職員であることに変わりはないので粛々と勤務し異動の準備も進めているとのことでした。第1回理事会の折りに卒業式を遅らせて授業日を確保することについて問題提起しましたが、山形県の場合はマスコミ報道の時期とともに「内示後も粛々と…」という意識改革の問題も大きいと感じました。

本日の理事会、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 報告

### 1 全連小第69回総会・研修会及び第226回理事会より

- 議事はH28年度決算承認に関する件、H29年度全連小活動方針に関する件、H29年度各部（対策・調査研究・広報）活動に関する件、H29年度通常会計予算に関する件、宣言決議に関する件であった。
- 研修では講演「当面する初等教育の課題」文部科学省初等中等局長（代理）があった。さらに行政説明があった。行政説明の内容は、学習指導要領、初等中等教育段階におけるグローバル化人材について、標準法の一部改正、次世代の学校指導体制強化のための教職員定数の充実について、学校現場における業務の適正化等であった。

### 2 東北連小第1回理事会・研修会より

- 小中併任等の場合の県連小負担金の扱いについて、各県の実情が異なるため、この点を考慮して対応することが報告された。
- 協議として、役員選出、H28年度活動・決算報告、H29年度の方針・重点（案）・会計予算（案）・研修課題（案）について、東北連小山形大会及び青森大会、全連小秋田大会について承認された。
- 研修会は「ネットモラル教育の推進について」をテーマにして、宮城県理事より話題提供され、東北各県の状況と取組について情報交換、協議を行った。
  - ・何らかの方法でインターネットに接続できる機器を所有している児童生徒も多いが、そのことを保護者がよく理解していない。（山形）

- ・仲間外れ、親とトラブル、知らぬ間に課金等の問題が起こっている。（福島）
- ・子育てで子どもを遊ばせるのに、ゲームやスマホを安易に使ってしまう。（福島）
- ・「情報モラル研修」を県教委による悉皆研修として位置付けて実施している。（岩手）
- ・SNS問題への危機意識が、地域間で差異が見られる。都市部では危機感が高い傾向にある。（青森）
- ・市校長会、市PTA、市教委でネットトラブル協議会をつくり、パンフレットの作成やルールづくりを進めている。（秋田）
- H28年度末退職理事に対する感謝状贈呈式と感謝の会が開催された。

### 3 県連小各専門委員会から

#### ①対策委員会（高橋守幹事）

- 第1回（5/11）、第2回（7/12）小中合同対策会議、経営懇談会（8/4）、今後の予定について報告された。
- 「お願い」の提出は、9/8を予定している。経営学習会は、11/2に開催予定である。

#### ②生徒指導委員会（細梅雅弘理事）

- 第2回生徒指導委員会、小中合同生徒指導研修会について報告された。特に、山形県警察本部生活安全部少



## 地区校長会訪問

### 共に学び合う校長会のよさを活かして

西村山地区校長会

西村山地区小学校校長会は、寒河江市10校、河北町6校、西川町1校、朝日町3校、大江町2校の合計22校で組織され、人間性豊かな児童の育成を目指し、長年にわたって時代の変化に対応した研究実践と教育諸条件の整備に努めてきた。

本年度は、学校経営研究活動としては①創意ある教育課程の編成・実施・評価と改善 ②研修活動の推進 ③児童の安全確保と健全育成の推進 ④教職員の資質・能力の向上を、対策活動としては①人事対策の推進 ②行財政対策の推進 ③給与対策の推進を、組織活動としては①研修活動の充実 ②他機関との連携強化 ③各種大会・協議会等への協力を重点に取り組んでいる。

具体的な事業としては、3つの研究部会「連携・接続」「評価・改善」「研究・研修」による研修の他、6月には横浜国立大学の高木展郎先生をお招きし、地区内の多くの先生方とともに「新学習指導要領改訂の背景と求められる授業」と題した講演をお聞きし研修を深めた。また、7月の東北連小山形大会及び10月の全連小佐賀大会において、「学校の教育力向上と活性化を支える研究・研修の推進～担任力を高める研修の推進と校長の在り方～」について発表する機会もいただいた。

今後も、連合体としての組織力を高め、小中や保護者、地域そして関係機関等との連携を大切にしながら、教育の更なる充実を目指していきたい。

寒河江市立寒河江小学校 山田健二

年課長より、問題の所在に気付いた時の警察への相談通報が連携に結び付くことがあることを共有したいとの話があった。

○小中学校合同生徒指導研修会が8/8に開催され、SNSの普及状況と問題点について情報交換、協議を行った。

### ③研修委員会（伊東守理事）

○第1回、第2回研修委員会、研究紀要「第61集」の内容と構成、執筆者一覧、スケジュール（2月下旬発刊予定）について報告された。

○H29年度の全連小調査該当校一覧が示された。（81校が該当）

## 協 議

### 1 H30年度「第72回県連小研究協議会」（最上地区担当）について（伊東守実行委員長）

○資料に従い、講演、分科会、大会趣旨（案）、大会宣言（案）、分科会ごとの趣旨（案）、スケジュールが提案された。

- ・講師のプロフィールの文章や体裁を訂正した方がよい。
- ・大会趣旨には、東北連小山形大会と同様に、「東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故」の文言を入れる。
- ・5つの分科会にしたことの説明を、何らかの形で入れた方がよい。→最上地区で検討。
- ・主題、副主題でのスペース（半角、全角）を統一する。
- ・学校教育法や文科省での表記をそのまま使用する

るかどうか、また、「～」の使用について10月開催の研修委員会で協議して、11月の県理事会で承認する形で進める。

### 2 H31年度以降の県連小研究協議会の会場等について（高橋禎幹事長）

○ビッグウイングだと予約が1年前からであり、他団体と重なるケースがあった。10分科会から5分科会に変更になり、会場を確保できる山形市内のホテルやホールに見積もりをお願いした。予算、駐車場、会場レイアウト等の検討をもとに、H31年度から会場をヒルズサンピアにする旨が提案され、承認された。

### 3 東北連小大会運営準備金（仮称）に係る意見集約のお願いについて（高橋禎幹事長）

- 東北地方で8年に1度開催される全国大会の運営に資するための準備金を積み立てる。コンセプトは細く長くであり、先を見据えて積み立てていく。
- 最初から開催経費の見込みが4,000万円がいいのか。減額の工夫をした上で、準備金の積立を実行することにしたらどうかという意見もある。
- 各地区で意見を集約して報告願いたい。



## 共に語り合い学び合える小学校長会を目指して

西置賜地区校長会

西置賜地区小学校長会は、16校（長井市6校、小国町2校、白鷹町4校、飯豊町4校）で組織し、年間5回の活動日を設定し活動している。本地区は、中学校6校を合わせても21校（うち1校は小中併設校）であるため、年間4回は小中合同の活動日とし、会議や研修も合同で開催する時間帯を設定している。

本地区小学校長会では、研修活動の重点として次の5つを設定し、研修に取り組んでいる。①各校、各市町の特徴ある学校経営を交流し、研修を深める。②確かな学力の育成を図る実践について研修を深める。③「自己指導能力」を育む生徒指導の充実について研修を深める。④健康・体力づくり、安全教育の充実についての研修を深める。⑤教育諸条件の整備・改善に努める。

特に今年度は、世代交代が進む中で校内における人材育成が急務となっていることから、人材育成に係る各校の取組を持ち寄り、互いの実践から学ぶ機会を設定したり、重点③については、小中合同の校長会で、「自己指導能力を高める積極的な生徒指導」というテーマで、前米沢市立六郷小学校長であられた小林知可志氏にご講演を賜り、研修を深めたりすることができた。

今後も、各校長が揺るぎない信念のもと魅力ある学校経営ができるよう、共に語り合い学び合える小学校長会を目指していきたい。

飯豊町立手ノ子小学校 竹田俊章

## 理事研修会より

## テーマ1

## 「カリキュラム・マネジメント」の工夫について

話題提供 西村山地区校長会 山田 健二  
(寒河江市立寒河江小学校)

西村山小学校長会でのアンケート結果より

## 【英語教育】

- 英語教育についての教職員の理解は、「ある程度理解されている」、「やや不十分」が多い。
- 取組の進捗状況については、研修会の開催や時数や日課表の検討をしている学校が多い。
- 河北町では、来年度から本格実施と同様の時数で行う予定である。
- 移行期間中の時数確保については、「ぶら下がり」の1時間増が最も多い。

## 【道徳の教科化】

- 道徳の教科化についての教職員の理解は、「ある程度理解されている」が最も多い。
- 授業研究会の実施、先進校視察などを実施している。
- 寒河江市では、市教育研究所の課題研修部会でも取り組んでいる。

## 【寒河江小学校での取組状況】

- 管理職と教務主任を中心に検討を重ねてきた。夏休み中に「教育課程検討委員会」を組織し、具体的な方向性を検討している。
- 単に時数を確保するだけでなく、目標、学習内容、指導力向上、環境整備等も考慮しなければならないことを共通理解した。
- 寒河江小では、余時数との兼ね合いを考慮しながら、長期休業を2～3日程度減じて授業日数を確保するのが、望ましいのではないかと考えている。
- 全教職員で、カリキュラム・マネジメントをしていく学校づくりが大切である。

## テーマ2

探究型学習をさらに進めるための  
校長のリーダーシップの在り方について

話題提供 県連小会長 田中 利幸  
(山形市立第四小学校)

- 全国学力・学習状況調査の結果を鑑み、児童に力を付けるために、学校全体で実効性のある学力向上策を検討していく必要がある。
- 学力向上に向けて「働き方改革」の視点から県への要望があれば、出していただきたい。
- 本校では、県学力テストを教員全員で分析・考察した。一般テストと県学力テストとの質の違いや、児童に付きたい力やそのための授業改善について、全員が自分のこととして捉える良い機会となった。

2つの話題提供を受けて、各地区の状況、取組や課題について情報交換を行った。

## 〈各地区理事から〉

【田川】外国語については、鶴岡二中学区の小中高が県の委嘱を受け、重点的に取り組んでいる。目の前にあるのは、時程の問題である。田川地区全体で統一ということはない。先行実施する学校も検討中の学校もある。三川町では先行実施する予定である。

【飽海】7月に開催された朝陽五小の研修会に参加し、理解

を深めた。また8月には指導主事から指導していただいた。中学校区ごとに先行実施するかしないかの判断をすることになっている。若手の教員に外国語についての研修会を企画させ、研修を深めた。

【東村山】天童市では、先行実施する予定である。山辺・中山については検討中である。教務主任会等で情報交換し、進めていきたい。学力については、結果の数字に対しての一喜一憂にならないようにしたい。

【北村山】外国語については、各地区で構想中である。これからの経過や移行措置を見ると、現在の小5が一番大変になると思われる。移行措置期間の15時間では、内容的にきつのではないか。主体的な学びができていない子どもは、B問題も解けるといふ実態があるし、問い続ける子どもになっていく。個々の学びが確立していると深い学びになる。外国語をしながら、国語、算数の学力を向上させるには、かなりの労力を必要とするのではないかと。また、働き方改革と矛盾するところが出てきてしまう。仕事の量を減らすことが必要である。

【上山】2学期制を取り入れているので、外国語については柔軟に対応できるのではないかと。総合を振り替える方向で考えている。ALTの増員を市教委にお願いしていく。また、道徳の評価をどうするか考えている。学力については、各校それぞれの対応になっている。学んだ力より学ぼうとする力を重視したい。人的環境や対話的な学習を積極的に実施し、学ぶ意欲を高めていきたい。

【米沢】米沢市内の小学校は、中学進学時に複数の学校に分かれるので、全小学校で移行措置の対応で統一する予定である。国加配により、米沢東部小へ英語専科が配置されている。小学校だけでなく、中学校の内容も読み解く必要がある。時数確保に関しては、教務主任会で情報交換し進めている。道徳については、先行実施している万世小の実践に学んでいる。

【西置賜】管内の特例校では、1・2年生もモジュール制で外国語活動の授業をしている。主に朝の時間を活用して、20時間はモジュール制をとっている。英語の中核教員の育成が課題である。外国語活動と外国語との違いをしっかりと理解したい。学力については、教員は一生懸命やっているが、生活経験の不足も主体的な学びに影響していると思われる。基本は、安定した学級・学校である。

【東置賜】外国語については、余時数を使って対応しようと考えている。夏休みを削減することも難しい。学力については、一人一人の家庭状況に対応し、生活習慣を確立し、子ども達に実体験を通して学ばせていかないといけない。

【山形】ICTの活用を進めていく必要がある。そうすることによって、外国語活動や外国語の学習も改善されていく。プロセス重視の姿勢は、間違っていない。総合的な学習をもっと重視していくことによって、探究型学習が充実していく。

【最上】余時数を活用しながら、高学年70時間、中学年35時間で外国語学習を進めていく学校が多い。学力については、最上全体としては上がってきているが、学年間での差が見られる。教頭、教務に余裕が無くなり、日常の疲労感が増している。仕事の内、何かを削減していくべきだろう。

【その他】業務アシスタントのような人的増員を県に要望していきたい。

各地区で、話題にいただいたとき、今後も県理事会で議論していきたい。

